危険物倉庫拡充で事業拡大

■朝日森運輸、成田でも新設検討

朝日森運輸は特殊倉庫の拡充を進めており、得意とする温度管理倉庫に加え、危険物倉庫を柱の1つに成長させていく方針だ。2018年11月に開業した鹿嶋支店鹿嶋港南浜危険物倉庫（以下、鹿嶋危険物倉庫）は、今年5月に3棟目が竣工し、既にほぼ満床状態となっている。保税蔵置場申請への準備を進め、さらなる機能強化を急ぐ。また成田地区でも危険物倉庫の新設を検討しているという。

鹿嶋危険物倉庫は5月に3棟目が竣工。ほぼ満床となっている

鹿嶋倉庫で保税取得準備

鹿嶋危険物倉庫は鉄鋼や石油化学などが集積する鹿島臨海工業地帯に位置する。同社は16年に成田東部物流センター（成田市多良貝、以下、成田東センター）に約100平方メートルの危険物倉庫を開設していたが、鹿嶋での開設で本格的に危険物倉庫事業に参入した。約8000平方メートルの敷地に3棟を順次建設する計画だったが、引き合いが好調なことから建設を早め、19年4月に2棟目、今年5月に3棟目が完成した。

倉庫面積は各棟1000平方メートル。倉庫前後に搬出入口を設け、混雑時など迅速に搬出入が行える仕様とした。高機能スプリンクラーや電力バックアップ装置も完備。またコンテナ積卸用大型特注スロープや防爆用フォークリフトも備えている。

取扱貨物は第4類（引火性液体）の工業製品などが多いが、今年に入ってからは消毒用アルコールの扱いも急増している。同倉庫を担当する高橋秀喜執行役員は新倉庫の引き合いについて「全国で危険物倉庫の供給が不足しており、近隣地域だけでなく、中部や関西などからの問い合わせも多い。また比較的古い危険物倉庫も多く、新設倉庫での保管ニーズに手応えを感じている」と話す。

今後については保管だけでなく、梱包など付帯作業の提供も進めていきたいとの意向だ。同社は梱包を中心にフォワーダーや荷主の物流業務を支援するサービスを手掛けている。鹿嶋危険物倉庫は成田空港への1時間程度の距離にあり、輸出入貨物の拠点としても好立地にある。輸出貨物については成田東センター経由で、貨物特性や荷姿に応じた梱包処理、航空会社上屋への搬入が可能。成田東センターの危険物倉庫で、出荷待ち待機保管の発生時にも対応できる。

鹿嶋危険物倉庫でも保税蔵置場認可を取得するとの方針。同倉庫で入荷から梱包、航空会社上屋への配達とワンストップで提供する体制を構築するほか、海上貨物への対応も強化する。高橋執行役員は「将来的に鹿嶋港を利用した輸出入のスキームも確立させていく。さらに、鹿嶋エリアで拡張のための用地も確保しており、ニーズに対応して拡大も検討していきたい」と意気込む。また、化学品だけでなく、エンジンなど危険物に関わる貨物の取り扱いも進めていきたいとしている。

横芝光工業団地で用地取得予定

同社は特殊倉庫の機能強化を進めている。昨今の需要波動の大きい航空貨物市場において、温度管理貨物や危険物に対応した特殊倉庫への投資を進めるフォワーダーは少ない。高機能倉庫の整備を進めていく事で、フォワーダーや荷主の物流をサポートしていく。

直近では成田東センターで、温度管理機能を強化した。この9、10月で空調庫248平方メートル、冷蔵庫220平方メートルを増床した。同施設はこれまで冷蔵884平方メートル、冷凍193平方メートル、空調222平方メートルの温度管理倉庫があり、成田地域で比較的大規模の保冷庫を構えていた。成田東センターは今後、温度管理貨物に特化した倉庫として活用していきたいとの意向だ。

さらに成田空港周辺地域で、冷蔵機能を備えた危険物倉庫の開設も計画している。同社では今年8月に空港南側の横芝光工業団地内に新たに成田南部第2物流センターを設けた。同工業団地でさらに用地取得を予定しており、南部地域での施設活用の再編を含めて検討していくという。営業担当の鵜見裕之執行役員は「保冷の危険物倉庫を挑戦しようと思っている。温度管理貨物の取り扱いのノウハウから、保冷対応の梱包設計も進化しており、最適な価格で保冷輸送が可能だ。危険物においてもオーダーメイドの保冷物流を提供していく」と話す。